

1 学年立山自然観察実習報告

- ◇期 日:事前指導 令和4年7月7日(木)
実 習 第1グループ 令和4年7月18日(月)~19日(火) 1泊2日
第2グループ 令和4年7月21日(木)~22日(金) 1泊2日
事後指導 第1グループ 令和4年7月25日(月)
第2グループ 令和4年7月26日(火)
- ◇場 所:事前指導 至誠ホール 実 習 砂防博物館・美女平・弥陀ヶ原・室堂周辺
事後指導 本校コンピュータ室
- ◇参加者:探究科学科1学年 80名、富山県ナチュラリスト協会会員の各先生、
富山県天文学会の各先生、本校教員

学校を出発し、まず、砂防博物館で立山の歴史、岩石の特徴を詳しく学んだ。その後、美女平に向かい、4人1班の10班で森林の中を散策し植生調査を行った。森林には、ブナやカエデなど、多くの植物があり、事前学習で学んだことを生かしながら、調査を行った。また、ブナ林やエゾユズリハなどの植物の生存戦略を考えながら、観察した。次に、弥陀ヶ原へと向かい、立山カルデラを見たり、オオシラビソの偏形樹の観察を行ったりした。オオシラビソの樹木の成長の仕方から、冬の季節風の風向や積雪を推定した。ゲノムサイズが最大と言われているキヌガサソウを観察し、絶滅する可能性が高い貴重な植物の様子を見ることができた。夜は天体観察をする予定だったが、あいにくの雨だったため、室内で富山県天文学会の方の話聞いた。天文学に関する興味をそそるお話で、多くの生徒が積極的に質問などをした。星座や天体など、宇宙には多くの不思議なものが存在し、宇宙の広大さを改めて実感した。その後、班員と1日目の振り返りを行い、実習の反省点や良かった点を挙げ、2日目に生かそうと話した。

2日目には、室堂で高山植物と雷鳥の生息調査を行った。高度1000m~2500mの地点は気温、降水量の変化が大きく、そこに生育する植物、生物はその場所に対応したものだ。事前指導で、「立山に咲く花々の姿や名前」「木の名前と葉の特徴」「高度に対応した木の姿や名前」などの基礎知識を学び、その知識を身につけて実習に臨んだことで、立山を単なる山としてではなく、より深く探究心を持って見ることができた。普段では体験できないような観察ができ、自然観察力を向上させることができた。室堂には、多くの高山植物が生育しており、1人1人が植物の状態や見つけた場所などを丁寧に記録した。また、花の形、花序も1つ1つ異なっていて、立山の気候に適応できるような工夫があることを知った。生息数が少なく、見られる可能性が低いライチョウも観察できた。弥陀ヶ原では、池塘調査と植生調査を行った。弥陀ヶ原は、ラムサール条約にも登録されている。約7300年前に噴火した鹿児島県の鬼界カルデラの火山灰の層が見られて、自然の不思議さを感じた。池塘では、平地では見られない植物を観察でき、生えている場所などを記録した。

実習を通して、自然に対する関心をもつことができ、観察力を高める良い機会になったと感じた。この経験を、これからの学校生活に生かし、様々なことに探究心をもちながら過ごしていきたい。

立山自然観察実習にあたり、様々な準備をしてくださった先生方や関係者の方々に感謝したい。大変有意義で、貴重な経験を糧に今後の探究活動を行っていきたい。

